

2024 年度 IEC TC 76 年次会議を北九州市小倉 において開催



小倉駅前に設置した掲示板



会場となった北九州国際会議場（黄色の建物）

2024 年の IEC TC 76 年次会議が、8 月 25 日～30 日の日程で、北九州市小倉において開催された。国際電気標準会議（IEC）と一般財団法人光産業技術振興協会（OITDA）との共催である。

世界 14 カ国から 100 人を超える専門家が参加。今回は、日本がホスト国で、北九州という「地方の魅力」を満喫できる地域での開催ということもあり、夫人同伴で来日する専門家が 12 人となった。

IEC TC 76 は「レーザー機器の安全性」に関する国際標準を策定している。医療用レーザー装置、光ファイバ／光空間通信システム、レーザー加工装置等の安全性が対象。レーザー機器は、安全性の確保がなされないまま新製品の市場投入が先行するケースが散見され、放置すると大きな社会問題になりかねない重要な課題。そのため、国際規格の新規提案が次々に行われており、下記に示すワーキンググループ（WG）に分かれて精力的に議論が行われている。

WG1 (Optical radiation safety)、WG3 (Laser radiation measurement)、WG4 (Safety of medical laser equipment)、WG5 (Safety of fibre and free space optical communications systems)、WG7 (High power/energy lasers and laser systems)、WG8 (Development and maintenance of the base standard and supporting IEC publications)、WG9 (Non-laser optical radiation safety)、JWG10 (IEC/ISO - Safety of lasers and laser equipment in an industrial materials processing environment linked to ISO/TC 172/SC 9)、JWG12 (Eye and face protection against laser radiation linked to ISO/TC94/SC6TC)、JWG 21 (Photobiological safety of light sources and luminaires emitting visible light Managed by TC 34)。

今回の会議で審議された規格の件数は20件で、医用レーザー機器、光ファイバ通信、高出力レーザーなど。また、ハンドヘルドレーザー、目と顔の保護に関する規格は、ISO との Joint WG を設置して議論している。

今回の会議で決定された主な項目は、①レーザー製品のクラス分けのための測定法に関する規格策定の開始、②マルチモードファイバ (MMF)からのレーザー放射に対する安全値の新たな計算方法に関する技術レポート (TR)策定の開始、③高出力レーザーの安全性に関する規格策定を次のステップへ進める、④目と顔の保護に関する規格策定を次のステップへ進める等。

大型で強い勢力の台風 10 号がゆっくりと北上し、北九州にもその影響が及び始めたことから、29日午後のWGと30日午前中の全体会議は、残念ながらリモートに。対面会議が原則のIECであるが、安全対策上、やむを得ない措置でした。

なお、本会議の実施に当たっては、北九州市及び（公財）北九州観光コンベンション協会の協賛を得て、多大なるご支援をいただきました。



会議の様様



国際会議場エントランスの掲示